

特集

輪・和・話
知恵の 人の マチの

6月1日

学園都市線が待望の電化

新型車両試乗レポート

新型車両を一目見ようと鉄道ファンと報道関係者が

待望の電化運行！6月1日から

札沼線（学園都市線）はJR北海道が6月1日に実施するダイヤ改正とともに、北海道医療大学駅までが電化になります。札幌～北海道医療大学間の列車100本のうち69本が電車での運転となり、性能向上によって一部列車の所要時間が1～9分短縮されます。3ドアの冷房車両も増えることから乗降もスムーズになり、朝夕の通勤・通学時間帯を中心に混雑が緩和されます。また、10月のダイヤ改正には全ての車両が電車に移行します。

電化により、札沼線も含む札幌圏の路線に、新型車両733系と735系も登場。6月1日より24両が投入され、最大6両で運転されます。電化は乗り心地の改善や時間短縮などのサービスの向上といった利用者へのメリットのほかに、環境に優しいといった側面もあります。しかし、この電化が大都市札幌との時間的な距離を縮め、名実とともに札幌圏に加わったという社会的意義が大きいのです。



颯爽とした顔立ちの733系新型車両

電化運行を前に、5/15 その乗り心地をチェック

電車の一番の利点は加速のスムーズさ。これまでのディーゼル車はエンジンの音が大きくなっていき、発進でしたが、電車のモーターはストレスなくスーッと加速しました。シートは札幌市営地下鉄などでおなじみのオールロングシートという左右一列の配列。通路が広く乗降口が片側3箇所となり、混雑時の乗降がスムーズになります。座り心地も適度な硬さがあって疲れを感じません。吊革はなんと様々な高さがあり、自分の使いやすい高さが見つかります。窓は大きく開放感があり、車窓を眺めるのも楽しくなります。全車両に冷房が完備されていますが、冷房の吹き出し口が車両全体にまんべんなく拡がっており、特定のところだけ冷やさないような工夫も見られました。



①



③



②



④

鉄ちゃん（鉄道ファン）の豆知識

写真① 段差のないステップ

ディーゼル車のような大きなエンジンを持たないため、床下は非常にコンパクト。車椅子の乗車も楽になりました。

窓が大きく、車内の雰囲気が明るい。短距離の通勤用に適した座席配列で、乗り心地が向上。

写真④ パンタグラフ

屋根についた電車の集電装置です。架線からの2万ボルトの電流を受けモーターを回し、最高時速は120kmです。運行される733系は3両で1ユニット。2両目がモーター搭載車で、このパンタグラフも2両目にあります。

写真② 広々とした車内

従来車両より巾が14cm拡大、

写真③ 大型のトイレ

扉は筒状で電動により開閉し、車椅子も回転できるスペースを確保。随所に細かな配慮が見られます。

JRでは電化による高圧電線接触などの踏切事故防止を呼びかけています。



太美駅を通過する新型車両 (5/15)

長年の要望活動が実を結び、町民期待のJR学園都市線の電化開業は、今後の当別町のまちづくりにも大きな影響を与えます。

普段、札幌方面へは自動車を利用されているみなさんも、この機会に電車を体験してみたいかでしょう。